

もっと知りたい 有機食品

**有機農業は
土づくりから**

野菜、コメ、果物、茶やそれらの加工食品に『有機JASマーク』がついた有機食品が目につくようになってきました。



▲有機JASマーク

有機食品は、そのつくり方（生産段階）に特徴があります。

有機農業では、化学肥料と化学合成農薬の使用を避け、遺伝子組換え作物や放射線照射（収穫後の殺虫、殺菌など）も使わず、自然と調和した有畜複合（家畜飼養と野菜・果樹・コメづくりを組み合わせた）の資源循環型の農業を行っています。

その基本は、腐植（有機質肥料が腐熟したもの）に富んだ土づくりです。家畜や家さんのふん尿を稲わらや落ち葉などと混ぜ発酵させて堆肥にし、土に返して肥よく度を高め、丈夫な作物を育てるのです（無農薬では、農薬は使用してはいけませんが、化学合成肥料と



土壌改良資材は使用してよいことになっていきます）。

**買い方・食べ方も
有機的に**

現在、農作物やその加工食品に『有機』という表示をするには、農林水産省が設けた基準を満たし、同省の登録認定機関から認定を得ることが必要です。

これにより、私たちが商品を選択する際の手がかりになる表示がわかりやすくなりました。

しかし、外国産や遠隔地からの流通もしやすくなったため、地域の食、農、環境との有機的な関係が薄れる恐れが出てきました。

マークだけに頼らずどこでつくられたものか確かめてみましょう。

▼問い合わせ 市民課
(☎)1855

人が輝き まちがときめく

仲間たち Group

登別市民吹奏楽団

『登別市民吹奏楽団』は、「市民吹奏楽団がないのはさびしい」「となりまちにはあるのに、どうして登別市にはないの」という声にこたえて、市民有志が集まり結成しました。

現在、メンバーは口コミなどで集まった15人で、練習を毎週水曜日18時から総合体育館で行っています。楽器演奏を続けていた方もいますが、しばらく楽器にさわっていないかったという方もたくさんいます。

「市内には吹奏楽部のある中学校や高校があるので、しっかりとした基礎があるはず。押し入れなどで眠っている楽器を出して一緒に音楽を楽しみましょう」と参加を呼び掛けるのは、団長の伊藤麻美さん。「誕生したばかりの吹奏楽団ですから、まずは、仲間づく



これからの吹奏楽団を情熱のある仲間と一緒に育てていきます



りです。練習をして将来的には、発表会をやりたいですね」

これまでは個人での練習で、合奏などはできていませんでしたが、待望していた指導者が決まり、これから本格的な活動が始まります。

楽器演奏を続けていた竹村智晃さんは「登別市に転入し、練習場所を探していたところ、市民吹奏楽団の話聞き、練習を見学後、入団を決めました。音楽に対して情熱のある方たちと一緒に活動したいですね」と話してくれました。会場さえ確保できれば、水曜日以外も練習したいとのこと。みなさん、音楽に対する熱意は十分。入団を希望される方は、伊藤さん(☎)0926までどうぞ。